

はずかしい気持ちを隠した

六月十九日から七月十八日

はずかしい気持ちを隠した

「ああ、僕は、弱虫の馬鹿だ。

僕はまだ、自分がわからない、

幼稚なガキか。

情け無い、馬鹿だ。

男らしくない。

なぜ、彼女に面と向けられないのだ！

彼女を捕まえてでも、

前に出て、彼女に好きかどうか

返事を聞くべきだ。

ああ、僕はそれが出来ない男のくさったのか！」

後悔、何度しても、先には立たない。

僕は、自分が本当に情け無くなった。

その後、数日間、学校活動でいそがしかった。

そんな合間での彼女との出会いであった。

ハンドボールの大会準備、練習試合の為、

京都大学へ行ったり、

堀川高校へ遠征に行ったり、

毎晩、帰りが遅く、帰宅の電車は、

僕はいつも一人ぼっちだった。

朝も、夜も、僕の通学路には、

彼女がいない。

学校での授業に集中力がない。